

相変わらずの猛暑でフィールドに出るのも躊躇われる日々が続いていますね。先週は久しぶりに山梨方面に出かけましたが、青いゴマシジミには出会うことが出来ませんでした。乾燥しきっておりワレモコウも少なくなったように思います。自宅周辺のソテツに注意していますが、今年はクロマダラソテツシジミの食痕は見つかりません。継続して観察したいと思います。

(田中和夫)

### 【8月例会】

日時：平成25年8月20日（火）（第3火曜日） 午後7：00～9：00

場所：吉祥寺、武蔵野公会堂 第1・第2会議室

講演：相澤和男氏

「カラスアゲハ近縁種の交雑経過」、「カラスアゲハの変異」、「ミヤマカラスアゲハの変異」

### 【講師紹介】

相澤和男さんは1948年北海道釧路市のお生まれです。幼少の頃より中学1年まで東京の大田区に在住されましたが、その後北海道へ戻り、釧路そして北見に在住し、小野泷氏・矢崎康幸氏などと交友を広げられました。帯広畜産大学獣医学科を卒業後就職で転居され、現在は静岡県富士宮市に居住されています。相澤さんは知る人ぞ知るアキリデスの愛好家で、自ら「カラスアゲハ亜族研究室」を名乗られています。

相澤さんはカラスアゲハが好きになった理由として

1. 上京して友人からキリシマ・ヒサマツの膨大な飼育標本を見せられ、北海道でゼフは野外品を採るものと思っていたため、ゼフの蒐集は断念せざるを得なかった。

2. 現役時代社命により1984-1988にメルボルンに駐在し、春から秋まで毎週300kmを走り蝶を探索したが、確認できたのは20種強であった。これにより珍品は存在しない。人がその発生地を知らなければ、成果は無いという想いが確信となった。

3. 帰国後休みが取れず、採集行よりも飼育が主体となった。また以前植えたキハダが育ち、ミヤマカラスの飼育が主体となり、次いで変異の大きいカラスアゲハに取りつかれてしまった。

の3点を上げておられます。

この度、相澤さんの研究成果の一端をご紹介頂きたくご講演をお願いしましたところ快く承諾頂き、わざわざ静岡からお出まし頂けてのご講演です。

以上。 (担当：大野和美)

### 【以降の例会予定】 午後7：00～9：00

9月17日（火）（第3火曜日、立川市女性総合センター「アイム」5階 第3学習室）

私のベストショット・写真展

10月15日（火）（第3火曜日、立川市女性総合センター「アイム」5階 第3学習室）

講演：白石勝彦氏「インド・ラダックのバルナシウス」

石川光一氏「ヤマトシジミ」

11月19日（火）（第3火曜日、立川市女性総合センター「アイム」5階 第3学習室）

講演：松田邦雄・阿部功氏「ラオス・タイの蝶」

福田晴男氏「日本産ホシミスジの現状と課題」

12月15日（日）（第3日曜日、パレスホテル立川）

忘年会、「何でもセリ会」

## 【連絡事項】

### 1. 『第7回リベンジ高尾山の昆虫観察を楽しむ会（夜の部）』

場所：高尾登山ケーブル下駅前広場集合

日時：2013年8月27日（火）17：30～ 雨天の場合は中止。

参加費：100円／一人（ライトトラップ消耗品代）

申込先：8月20日締切、 齋藤秀昭 ([harunoc@gmail.com](mailto:harunoc@gmail.com)) 宛にメールで申込み。

（担当 齋藤秀昭、中村 清）

## 【7月例会 概要】

7月の例会は、武蔵野公会堂 第1・第2合同会議室において、恒例の「1人一話」が開催されました。例会の直前には武蔵野地方を襲ったゲリラ豪雨があったものの、31名もの参加を得て予定通り実施されました。

1人3分という制限時間でしたが、参加会員各位の協力と、齋藤秀昭タイムキーパーの名采配のお陰で、時間通り終了することが出来ました。改めて皆様にお礼申し上げます。

## 【一人一話の内容】

### 【伊藤貞雄】

今6月4日より約2週間ラオス及びタイに蝶観察に行ってきました。ラオスはビエンチャンから北上しバンビエン〜ムアンカシー〜ルアンパーバン〜ウドムサイへ参りここを基点に観察を行いました。

（珍しい蝶や昆虫の観察もできました）

タイはチェンマイ・パヤオを中心にW・Fでの集団吸水やオナガアカシジミ・カワトンボ等の撮影に成功しました。これらの映像は11月の例会で松田会長、伊藤貞雄、小野冷三、猿渡昇各会員と阿部功（埼玉昆談）氏が発表する予定です。どうぞご期待下さい。

### 【大野和美】

今年の春は、久しぶりにギフチョウを観察するため、2箇所ほど行って来ました。1ヶ所目は長野県下伊那郡下條村で、会員の須藤正弘さんと中村清さんと一緒に、蛾の夜間採集を兼ね、4月8日～9日、一泊二日の旅でした。

天候にも恵まれ、ギフチョウの数は少ないながら、観察できました。成虫の鮮度は、オスにバラツキは有りましたが、メスは発生した所といった状態で、卵も確認できました。

宿泊した旅館の入り口に、教育委員会名で、ギフチョウの成虫・幼虫・卵・食草の持ち出し禁止の看板が立ち、下條村でも保護活動が始まったようです。

2ヶ所目は東北のギフを見に、会員の福田幸雄さんと、現地在住の蝶友に案内して頂き、西置賜郡飯豊町（白川湖）と小国町へ、5月17日から18日にかけて出かけました。飯豊のギフは1週間前からただら発生しているようですが、初日は良く晴れていたにもかかわらず、気温は低く、全く飛びませんでした。翌日も良く晴れ、今度は暑いほど気温が上がり、ギフは暑すぎて樹林の中に入り込み出て来ません。樹林の中は雪が積って真っ白ですが、残雪の上を飛ぶギフを始めて目にしました。数は極めて少ない感じがしました。

小国町はオス・メスともベストで、数も多く観察できました。又、各地でウスバシロの発生が始まり、1週間後にはウスバシロの乱舞が見られる事であろうと思われました。

東北のギフも観察でき、早春の山形の山菜料理と赤湯の温泉も堪能した、十分満足の行く旅でした。来年は東北のヒメギフにも挑戦したいと思っています。

### 【内田脩太】

7月23日、八王子市の滝山公園へ採集に。

桜の木につくヤツメカミキリを11頭採集。1cmほどの小さなハンミョウ、トウキョウヒメハンミョウ

を9頭採集。触角が欠けていたが、綺麗な青色のルリボシカミキリを1頭採集。縞模様が綺麗なナガゴマフカミキリを2頭採集。

#### 【梅村 三千夫】

今年いい思いをした時のことを話します。

6月9～11日両俣小屋でポイントを独占してクモツキ撮影を楽しみました。個体数は多くありませんが、足場が良いので撮影がし易いのが何よりです。帰りは天気も悪く10時のバスに間に合うように必死に歩き、歌宿まで3時間45分で着きました。

キマルリ。フライングの懸念も頭を過る6月17日に会津三島に出掛けました。狙い通り数頭の大変新鮮なものが現れ、ヒメジョオンの花の上で開翅してくれました。

6月28日～7月2日石垣島にイワカワの完品を狙って行って来ました。イワカワは完品の♀が狙い通り撮れました。その他オオシロモンセセリの月桃での吸蜜、完品のヤエイチの開翅が撮れるなど満足の行く成果が上がった遠征でした。

#### 【倉地正】

6/28 あきる野市の多摩川の河川敷で奇妙な形の蛾が木陰の葉上に舞い降りたのを撮影しました。科名もまったく見当がつかずMLで尋ねたところモモボトスカシバと判明、もっと粘ってまともな写真を撮るべきだったと反省しました。

幸いなことに7/1 瑞穂町の湿地の脇で再度遭遇、今度は粘って飛翔写真も静止写真もまともに撮ることが出来ました。その後そこから遠くない武蔵村山市でも見かけました。こちらは足場と太陽の向きが悪く証拠写真しか撮れませんでした。

暑いのであまりフィールドには出かけておらず、蝶の方は報告出来るような成果はありません。

#### 【斎藤秀昭】

今年は2月半ばから風邪をひき、それがいつまでも直らず、5月の連休明けまで体調が戻りませんでした。老年期障害？

それでも時々町田市三輪での夜間採集には参加し、3月初めにホソバトガリエダシャクの交尾群に出会い、それを採卵、庭ではヤマナラシについていたチャバネフユエダシャクやニトベエダシャクの幼虫を採集、中村清さんに分けて頂いた鶴見川産のフチグロトゲエダシャクなどを飼育していました。6月の多摩虫夏合宿の際、中村清さんが採集・採卵されたトラガの幼虫を譲り受け、それも飼育し、皆越冬蛹になっています。

トラガの蛹化スタイルは朽ち木に潜り込むという変わったスタイルで、初めての観察で興味深いものがありました。今年は蛾の飼育年になりそうです。

#### 【零石卓】

今年は正月からむし社の西イリアンツアーがあり、比較的簡単にトリバネが採れる時代になりました。ゴライアストリバネ、チトヌストリバネ、ミドリメガネが採集できました。3月下旬には南ベトナムツアーでオウゴンテングアゲハを狙いに行きましたが、目撃は出来たものの、採集は叶いませんでした。山頂まで3時間の登りがきつく、簡単には行けない場所でした。5月中旬には昨年引き続き台湾ツアーを開催しました。14名もの参加者がありましたが、梅雨時で毎日雨に降られ、台湾のゼフィルスの採集は容易ではない事が解りました。さらに7月上旬にはキルギスタンのツアーがあつて、標高3800mのチョンアシュ峠では3日間は雪に降られましたが、最後の日は快晴に恵まれ、テンザンウスバ、デルフィウスウスバ、アクチウスウスバ、さらに標高2000m付近ではアポロウスバも採れました。

また、今後のむし社ツアーは、8月下旬にマダガスカルツアーがあり、その後、11月中旬にペルーツアーが予定されています。1年に6回ものツアー開催は私としても初めての経験です

### 【田中和夫】

5月6日から5月18日まで、ペルーに行って来ました。モルフォ蝶がジャングルを飛ぶ姿を一度は見たいと思ったのです。初めての南米行でしたが、途中でトラブルがあったので参考までに状況をお知らせします。

成田からペルーに行くには、米国ヒューストンでの乗り継ぎが必要なのですが、空港の入国審査で捕まってしまったのです。同行者と別れ別室に連れていかれると、アラブ系や中国系らしき人が数人、椅子に座らされていました。係官に乗継時間がないと言うと「No problem!」と一言だけ。何の説明もなく時間だけが経過、もう一度、乗継時間がないことを伝えに行こうと立ち上がると「Sit down!」。しょうがないので同行者に携帯で連絡しようとする「No!」。2時間近く拘束された後に解放されましたが、乗継便はとっくに出了後でした。最後に、今回の扱いに対する「Business Letter」を渡されましたが、拘束理由の説明は一切なく、賠償請求もできず泣き寝入りです。米国で乗り継ぐときは時間の余裕をとっておかないと痛い目にあう心配があるので注意して下さい。

なお、蝶に関しては3種のアグリアスや4種のモルフォなどに会うことができ、それなりに楽しい旅行でした。

### 【仲西周二】

カバイロシジミの飼育失敗（天敵サシガメ幼虫の食害）の対策を検討中。外来種クサフジが4月中旬から蕾を付ける事、種の入手も出来ることが分かり、累代に挑戦を考えている。

友人に累代の種蛹を期待したが、今年は大失敗だそうで、来年は挑戦できそうにない。

ムモンアカシジミの飼育も、飼育羽化まで行くものの、若齢の世話に手が掛かる。冷凍アブラムシ、雄蜂蛹の乾燥粉など、手の掛かる餌やりに代わる方法を模索中。クロウメモドキに付いたアブラムシを切枝にして生餌で与えてみた。これだと3～4日はもってくれる。しかしまたまた大失敗。アブラムシに紛れて混入したヒラタアブ幼虫に、半分以上のムモンアカ幼虫を食べられてしまった。

### 【中村英夫】

今年は、家庭の事情で5月末までは採集を控えており、春は、会社の出張機会を利用して公費で(不良サラリーマンですね)福井のギフを少々、6月に入り採集解禁になってからは、山梨・群馬のありきたりのアサマを80ほど、6月最後の日曜に奥只見で黒いフタスジ(今回は、♀でも前翅中室の白条が消失する黒化個体が採れて満足)を30ばかりといった具合で活動は低調でした。

7月に入り、暑さで戦意喪失。そんな中、先週末に埼玉昆虫談話会の秩父・旧大滝村の東大演習林調査に参加し、普段は一般車が入れない林道終点標高1200m超まで行きました。

その結果、埼玉のゼフとしては、絶滅したといわれるウラジロミドリに次いで希少なジョウザンミドリ(栃木・群馬・長野など隣県での普通種が埼玉では事実上の最希種)を1♂、それに次いで記録が少ないといわれるアイノ、エゾも各1♂、それぞれ記録できました。

(同行の蝶屋の一部メンバーもジョウザン、アイノをそれぞれ1♂採っていました。)

来月は、例年ならばゴマのシーズンですが、今年から松本・奈川が採集禁止になったので、今年の8月は何をしようかと悩んでいるところです。

### 【橋本定雄】

マダラチョウばかをやっています。最近ではアサギマダラの追っかけがメインです。

2月に、アサギマダラの原名亜種に会いにラオスへ行きました。これは、天候の加減で会えませんでした。

4月に南大東島でアサギマダラマーキング、5月末に台湾陽明山でアサギマダラマーキング、その後、富士山や中部山岳で、アサギマダラの卵や幼虫探しをやって来ました。

### 【早坂弘次】

6月14～17日 マレーシア・ペナン島に行ってきました。

マレーシアはイギリスの植民地時代の歴史建造物、多民族国家、色んな人種の方達とも出会え、島国

日本では見られないものが多く見られました。食べ物も、各国の料理が並んでいて美味しくて安いものでした。

蝶は観光旅行のついででしたので、標高800mほどのペナンヒル公園で2時間ほど採集しただけです。24頭13種類、中にはキシタアゲハ、ハレギチョウ、ヒメゴマダラなどあり、楽しめました。ワモンチョウはじめ2~3種類の蝶は確認できましたが、採集出来なかったものがあります。

機会があれば是非もう一度蝶、採集目的で行きたいと考えています。

### 【日野隆】

私が中学性の時に蝶に興味を持ち、採集を始めてから今年で50年になります。この節目の年にふさわしい活動ができたらと思いました。

まず一月早々にニュージーランドに出かけました。ニュージーランドは今回で4回目になりますが、今まで余り探していなかった北島を回ってきました。今回の成果も含め、来年2月の例会で話をさせていただきますので、興味のある方はお聞きください。

先月はアラスカに2週間余り行ってきました。こちらも4回目になりますので、新鮮味をあまり感じなくなりましたが、従来調べ残した所に加えてアラスカ南部も少し行ってきました。アラスカ南部はアンカレッジ周辺ですが、ウスバキチョウの産地が知られていないためか日本人採集者がほとんど行かない場所で、かつ米国人の調査・採集記録も非常に少ない所です。

最初の10日間はアラスカでは異常と思われるような高温・好天が続き、フェアバンクスなどでは私自身が今まで経験したことがない30℃以上にもなりました。この天候のためか、春の訪れの遅さのため発生が遅れていた蝶の中には一斉に発生したのものもあり、まずまずの成果が上がりました。しかしながら帳尻を合わすかのように後半は天気が悪くなり、特に最後の4日間は冷たい雨に完全に閉じ込められ一頭の蝶も見ることではできませんでした。この4日連続完封は私の50年の蝶との付き合いの中でワースト記録となってしまいました。

ニュージーランド、アラスカは今年で一区切りとし、来年からはカナダ北極圏の蝶に注力できたらと思っています。

### 【藤塚弘】

6月30日から7月9日までの10日間、北海道へ出かけて来ました。今年定年を迎えた友人がウスバキチョウを見たいと言うので大雪山(コマクサ平)を中心に層雲峡三泊で計画を進め、途中帯広での一泊と合わせて今まであまりゆっくり撮影してこなかった札幌にも三泊することにしました。メインターゲットはアサヒヒョウモンとシロオビヒメヒカゲ(定山溪)で、あわよくばリンゴシジミもと欲張りしましたが結果は1勝2敗。アサヒヒョウモンは足元から飛び去る1頭を目撃したのみで、やはり春の遅れた今シーズンは7月2日では早すぎたようです。

リンゴシジミは上川と音更のポイントを回りましたがまったく見られず、こちらは遅かった感じでした。そして最終日の7月8日に豊平峡のトンネル近くでシロオビヒメヒカゲが撮影できたので、何とか面目を保てたというところです。

ところで北海道ではメガネを壊したためにファインダーでのピント合わせに不安があり、全面的にカメラのオートフォーカスに頼ることにしました。ISOを800にしてF8の絞り優先とし、マクロズームの距離を基本的に135ミリ(フルサイズ換算200ミリ相当)までとして、シャッター速度が1/250以下になったときは念のため内臓ストロボを発行したカットを追加撮影するというものです。しかし結果はやはりいつになくピントの甘いカットが多くなりました。

### 【松田邦雄】

\*信州自然探訪 7/16~18(辰野・上高地・安曇野)

発見! アシナガバチの巣——青い蜂の巣? オオイチモンジ他——石垣にとまる

カトカラ(ジョナスキシタバ・オオベニシタバ)——樹の幹にぴったり

科学技術館メールマガジン「自然と友だち」(7月24日発刊)に報告します。

以上

**7月例会**

武蔵野公会堂にて

2013年7月23日

**「一人一話の発表風景」**



**「二次会の風景」**



**夏季合宿**

立川市八ヶ岳山荘にて

2013年6月8-9日



山荘前での集合写真（白石さん撮影）



夕食後の宴会風景



子供達に指導する小柴さん